

# Lesson 16 「院政と平氏」

～ Logical - 通史理解「日本史探究」疾風 Watabe 塾 ～

## 【院政の成立】

### ① 荘園整理令

- 摂関家を外戚としない〔1 **天皇** 〕が即位  
藤原氏の影響を排除…〔2 〕の補佐を得て天皇親政をおこなう
- 1069 (延久元)〔3 **延久の** 〕  
記録荘園券契所 (記録所) を設置  
→ 摂関家を含む全荘園領主から文書を提出させ、基準にあわない荘園を整理/没収

### ② 院政のはじまり

- 院政のはじまり  
→〔5 **天皇** 〕は、堀河天皇に譲位後も〔6 〕として実権  
権力の象徴 ～ 1076 年建立〔7 〕 ※天下三不如意
- 鳥羽上皇・後白河上皇も院政
- 政治的に制約の少ない立場にたつ上皇が専制的な政治をおこない摂関家を圧倒
- 上皇が出家すると〔8 〕
- 軍事力として、畿内や近国の武士を〔9 〕として組織
- 院の近臣 = 中下級貴族から、院庁の職員 (院司) となり院の手足として活動する者

## 【院政期の社会】

### ① 大荘園群の形成

- 〔10 〕… 上皇の意思をつたえる、摂政・関白の地位をも左右する
- 天皇家領荘園群 …〔11 **領**・**領** 〕など  
命令は〔12 〕により伝達
- 摂関家領荘園群 … 殿下渡領 (藤原氏の氏長者に伝来)

### ② 寺社勢力

- 〔13 〕 = 荘民と下級僧侶 (堂衆) を中心に〔14 〕を組織
- 〔15 〕… 要求を朝廷に認めさせるための行動  
⇒ 春日社の〔16 〕、日吉社の〔17 〕をおしたてる
- 朝廷は神仏の威をおそれて抑止できない  
→ 武士の棟梁を起用、武士の中央政界進出のきっかけ

### ③ 知行国の制度

- 上皇・公卿・寺社などを **知行国主** にして、一国の行政支配の実権を委ねる  
=〔18 〕 → 上級貴族にとって大きな収入源となる (経済的基盤)

## 【東北の動乱と武家の棟梁】

- 他者に所領を奪われる恐れ → 保護してくれる「武家の棟梁」を求める
- 1028 (長元元) **桓武平氏**の〔19 〕 → **清和源氏**の**源頼信**が鎮圧
- 1051 (永承6) 陸奥で安倍頼時・貞任らが反乱  
→ 1062 (康平5) 源頼信の子**頼義**と孫**義家**が平定〔20 〕
- 1083 (永保3) 奥羽で勢力を拡大していた清原氏に内紛  
→ 陸奥守であった**源義家**が、**藤原清衡**をたすけて鎮圧〔21 〕
- 東国武士のなかには義家と主従関係を結ぶ者も多く現れ、源氏の基盤が強固となる
- **奥州藤原氏** … **藤原清衡**が〔22 〕を拠点に奥羽の支配権を確立  
→ **藤原清衡**・**藤原基衡**・〔23 〕… 3代、約100年の支配

## 【平氏政権の成立】

### ① 保元の乱・平治の乱

- 天皇家の不和 (鳥羽法皇・後白河天皇 ⇄ **崇徳上皇**)  
摂関家 (関白 **藤原忠通** と弟 **頼長** の対立) での争い
- 1156 (保元元)〔24 〕… 鳥羽法皇の死を契機に合戦に発展
- 崇徳上皇と頼長は源為義・平忠正を味方に、後白河天皇と忠通は **源義朝**・**平清盛** を招いて討たせる → 合戦は後白河天皇方の勝利
- 1159 (平治元)〔25 〕… 後白河上皇のもと近臣・武士の争い  
→ **藤原信頼** と義朝が **藤原通憲** (信西) を自殺させ内裏を占領
- 清盛が信頼/義朝を鎮圧、義朝の子〔26 〕を流罪 (伊豆へ)

### ② 平氏政権

- 1167 (仁安2)〔27 〕が太政大臣となり、娘 **徳子** (建礼門院) が高倉天皇の中宮に入り、生まれた孫〔28 **天皇** 〕の外祖父となる
- **一族の高位高官独占への反感** → 平氏打倒の企て…〔29 〕
- 瀬戸内海航路を整備…〔30 〕を修築し「**日宋貿易**」を推進

## 【院政期の文化】

### ① 仏教文化

- 仏教は院 (上皇) 権力のよりどころ → 壮大な大寺院が建てられる (⇒ 六勝寺)
- 地方の寺院建立 → 中尊寺金色堂、白水阿弥陀堂、富貴寺大堂
- 平氏一族が安芸の〔31 〕を復興…『平家納経』
- **神仏習合**…〔32 〕 (日本の神々を仏の化身とみなす)

### ② 文学・芸能・絵画

- 軍記物・説話集・歴史物語…『将門記』『陸奥話記』『今昔物語集』『大鏡』など
- 芸能…猿楽、田楽、今様、〔33 〕… 後白河法皇が編纂
- 絵巻物…『源氏物語絵巻』『信貴山縁起絵巻』『〔34 **絵巻** 〕』  
『〔35 **戯画** 〕』など
- 装飾経…扇面古写経